

ギガスクール元年を迎えて

昨年度は、迷走する大学入試、突然の休校宣言、コロナ対応、学術会議会員 6 人の任命拒否など、教育分野でも大きな問題が続きました。こうした状況では、憲法 23 条「学問の自由」をはじめ、学習権、情報公開といった様々な価値が問われていると思います。高教組は全国の仲間と協働して、今年度も全国的な教育課題、労働条件の改善を目指すとともに、身近な問題の解決に向けて活動していきます。

さて、今年度の大きな話題と言えば、ギガスクールだと思います。本来、数年計画で進めるはずであった「1 人 1 台パソコン」構想を急に準備するよう指示された各校の情報部の先生方からは、長時間の残業、制度設計の不備といった苦情や報告が寄せられています。私たちは先生方の教育への情熱と献身に敬意を表すとともに、現状の労働強化を是正したい、と考えています。皆様の学校での現状、問題点、御意見などを下記のメルアドまでお寄せください。皆様の英知を結集できれば、台湾のような優れた制度設計に近づけられると思います。今や世界から注目されているオードリ・タン氏の手法に見倣いたいと考えています。では、連日、多くのメディアが取り上げている関連記事から 3 つを紹介し、話題のきっかけにさせていただきたいと思います。

1 ギガ（Global and Innovation Gateway for All 全ての人にグローバルで革新的な入口を）の理念について。これは「子ども全員に個別最適化され創造性を育む教育 ICT 環境を実現する」施策ということで支持する人が多数だと思います。しかし、もともとギガスクール構想は、政府・財界が計画する未来社会像である Society5.0 を担う人材を作りたいとする提言（例えば、2018 年「経団連」）からスタートしているため、その理念は、文科省・中教審が強調していた理念と矛盾します。すなわち、「学習指導要領」改訂での「主体的・対話的深い学び」に対し、GIGA は「個別最適な学び」を打ち出し、経産省・総務省の方針に文科省が追随する流れとなっています。

2 ICT 教育により、教師は生徒各人の反応にすぐに対応でき多様な意見を生かせる、というメリットがあるとのことですが、それだけの余裕が教師には保障されていません。逆にデジタル教科書、学習指導要領の項目とリンクして学習内容を組み立てることを要求されるので、教師への圧迫感は強まります。また、マイナンバーと学習履歴を紐付ける構想が進み、国民管理が強化される可能性があります。

3 『AI vs.教科書が読めない子どもたち』の著者、新井紀子氏は『ほんとうにいいの？デジタル教科書』の中で以下の問題点を提起。①目や心身への負担。②複数の資料を一覧して理解していくことが困難。（そのため、デスクトップパソコンを三面鏡のように設置する大人は多い。）③紙のメディアで上手に学んでいた生徒がデジタルで躓く可能性がある。④読解力の高い人以外にはハイパーリンク（参照機能）が深い理解をもたらすことはなく、逆に集中力を途切れさせやすい。

群馬県では笠原教育長の後任として、県教育委員で共愛学園副学園長の平田郁美氏が就任します。氏は情報通信技術（ICT）を活用した教育などで注目されています。昨年度の組合と県との話し合いの様子からすると、県の要職にいる人たちは学校現場の状況を正確に知りたがっていますので、今年度も「デジタル化」について多角的に議論がなされると思われます。生徒 1 人 1 台のパソコンがどのような変化を引き起こすのか、既に賛否両論が飛び交っていますが、まずは各校の実態を集約して教育長、教育委員会の人たちと話し合っていきたいと思います。

職場をめぐる様々な問題について、皆様のご意見・情報をお寄せください。
高教組は教職員の労働条件改善のために頑張ります。ご支援・ご加入をお願いいたします。

群馬県高等学校教職員組合

(TEL:027-231-2784/FAX:027-231-2787)

ホームページはこちら

<http://www.ghtu.org/>



